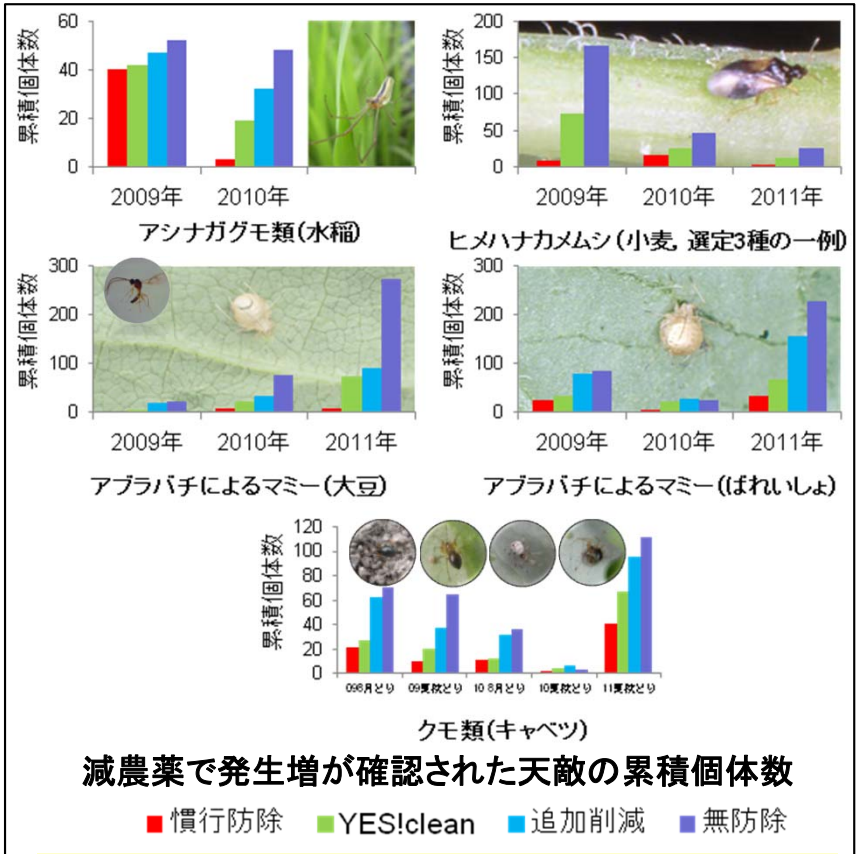
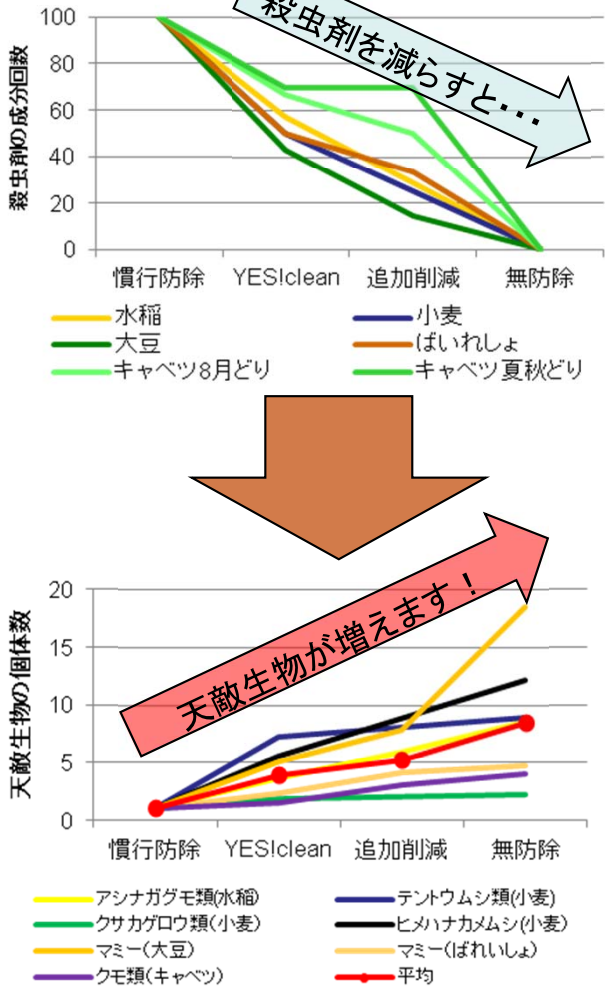


天敵生物の発生量増加による クリーン農業の環境保全効果の確認

○クリーン農産物を生産している農地では、生物多様性等の環境保全の観点でどのような改善がなされているのでしょうか？

この疑問に答えるため、**水稻、大豆、ばれいしょ、小麦、キャベツ**の5作物を対象に、**減農薬栽培を実施して天敵生物の発生量を調査しました。**



減農薬で発生増が確認された天敵の累積個体数

上図に示すような天敵類は、減農薬レベルに応じた発生量の増加が観察されました。

このように、殺虫剤使用量を減らしたほ場で、天敵生物の増加が確認されました。減農薬栽培には、このような環境保全上の効果があることがわかりました。

<p>指標天敵のマニュアル</p> <p>図版Ⅰ</p> <p>水稻のアシナガモ類</p> <p>6月 7月 8月 9月</p> <p>観察時期は1種目7月下旬～8月上旬、2種目8月下旬～9月上旬</p> <p>アシナガモ類の発生</p> <p>アシナガモ類は、6月中旬以降の間に発生し、8月上旬以降にピークを迎える。発生量は100個体/10㎡程度と推定される。発生ピークは8月上旬～中旬に達する。</p> <p>本圃内600個体/10㎡程度</p> <p>観察時期は8月上旬～中旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p>	<p>図版Ⅱ</p> <p>小麦のアブラムシ類捕食性天敵</p> <p>6月 7月</p> <p>観察時期は7月上旬～中旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>アシナガモ類</p> <p>観察時期は7月上旬～中旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>クサガゴウ類</p> <p>観察時期は7月上旬～中旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>ヒメナカメムシ</p> <p>観察時期は7月上旬～中旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p>	<p>図版Ⅲ</p> <p>大豆のアブラバチによるマミー</p> <p>6月 7月 8月 9月</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>マミー</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>アブラバチ</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p>	<p>図版Ⅳ</p> <p>ばれいしょのアブラバチによるマミー</p> <p>6月 7月 8月</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>マミー</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>アブラバチ</p> <p>観察時期は6月下旬～7月下旬</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p>	<p>図版Ⅴ</p> <p>キャベツ周辺のクモ類</p> <p>定植後20日 40日 60日</p> <p>観察時期は定植後20日～40日</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p> <p>クモ類</p> <p>観察時期は定植後20日～40日</p> <p>観察方法は、10㎡程度の範囲を10～20分程度観察し、発生個体を数える。</p>
---	---	--	--	--

これら発生増の確認される「指標天敵」を観察するためのマニュアル(入手方法は下へ連絡)を作成しました。